

デジタル田園都市国家構想交付金・地方創生推進タイプsociety5.0型 交付対象事業  
 「新技術で命を守る」スマートシティ推進事業の実施に係る意見募集／意見の概要と本市の考え方

No.	分類	意見の概要	本市の考え方
1	推進体制について	<p>まず、最初に、伝えておきたい事が有ります。                      いつもの事ながら思うのは、意見募集やパブリックコメントでもそうですが、行政側からの一方通行の極みでは？どの様に審議されたのかが全く持って不明と言う事です                      もっと必要な意見を募集するのであれば、政策決定後ではなく、それなりの時点で不特定多数の意見を求めるとかすべきとは思いますが。                      しかも、その結果もほぼ知らされておらず、何処まで審議されたのかも分からず仕舞いでは意味をなさないように感じるのは意見を出した者にしか分からないモヤモヤの気分ではなからうか？もう少し、開かれた審議内容報告が、求められると思う。</p> <p>前置きはさておき、本題に戻して意見を述べさせていただきます。                      事業内容では、空飛ぶクルマの医療、防災に利用を促進するために、各種調査・検討を進めたうえで実装計画を策定し、空飛ぶクルマの製造企業に対する改良提案を作成するとしているが、その前に、各種調査・検討委員会をどの時点で初めて、どこに行きつくかさえ、ほぼ皆無、要は、計画の実施段階でこれからの方向性を決める初歩段階と理解しても良いのでしょうか？</p>	<p>パブリックコメントでは、政策決定前の案を公表し、市民の皆さまから意見を募集し、いただいたご意見とそれに対する市の見解・回答を公表しています。そしてその後に予算措置が必要なものについては、予算案を議会に提案し、議会で審議され、市民の皆さまや議会とのオープンなやり取りの後に政策を決定することになります。</p> <p>現在、国では、2025年の大阪・関西万博で「空飛ぶクルマ」の商用運行を実現させることとしており、「空の移動革命に向けた官民協議会」を設立し、各ワーキンググループにおいて、法整備や機体の安全基準、離着陸場の検討などが行われており、本市もこれに参加し、要望や情報収集を行っているところです。</p> <p>また、慶應義塾大学や航空関係団体、医療関係団体などで構成されたコンソーシアム「NEXTAA／ネクスタ」では、「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム等の検討が行われており、本市も今後、このNEXTAAと協議・検討を行うこととしております。</p> <p>このような背景の中、本市では令和4年度より宮崎大学や慶應義塾大学、旭化成等で構成するコンソーシアムを設立し、「空飛ぶクルマ」を見据えた、本市の救命救急医療の対応力強化について協議を進めてきたところであり、その成果を活かして、今回、国のデジタル田園都市国家構想交付金に採択された『「新技術で命を守る」スマートシティ事業』により、市内の医療・防災関係者並びにNEXTAAと連携しながら、「空飛ぶクルマ」の医療・防災面での活用を具体的に検討し実装を目指すこととしております。</p>
2	実現可能性について	<p>計画は、机上の空論といわれることが多い中で、延岡市の持つ地形・行政範囲の広さを、身をもって知らされた私にとっては、あまりに漠然過ぎてどこから意見述べて良いのかさえも視点・論点が見つからない                      私は、今年の4月の統一地方選挙活動中に、北方の三極・二股地区に街宣活動に行ってきました。                      その時に、土地の古老から「アンタだけじゃここに来てくれたのは、この地区は、延岡市から見放されている」といった悲痛な叫びを耳にした。                      島野浦にしてもしかり、離島がゆえに緊急医療の必要性を耳にすることが多かった、行政は見向きもしないという言葉聞いたときに、市長が懸命に努力している事もこうした苦情の現実の前には、むなしくかき消されていると感じて涙さえ出て来た。</p> <p>要は、市長のビジョンは、とてつもなく理想は高いし尊敬はできるが、裏を見れば現実離れた事としか理解されていないのでは無いでしょうか？</p>	<p>延岡市では「新合衆国づくり」として三北や島野浦の再生なども強力に進めており、実際にさまざまな事業が着実に実施されています。</p> <p>令和4年度に国に採択された救命救急医療関連プロジェクトにより、例えば、心筋梗塞や脳梗塞について、従来よりも短時間で治療が開始されることを可能にしたところです。</p> <p>また、「空飛ぶクルマ」につきましては、国では、2025年大阪・関西万博で「空飛ぶクルマ」の商用運行を実現させることとしており、法整備や機体の安全基準、離着陸場の検討などが現在行われているとともに、世界各国そして日本でも型式証明の申請が既に各社から出されています。</p> <p>さらに、今年の2月には、大分県大分市「田ノ浦ビーチ」や岡山県笠岡市「笠岡ふれあい空港」で「空飛ぶクルマ」の有人試験飛行が行われる等、「空飛ぶクルマ」の試験飛行も既に行われております。</p> <p>今後、本事業により、一人でも助かる命を増やすべく取り組んでまいります。</p>
3	費用について	<p>つまり、壮大な計画にはリスクが付き物である。しかも真っ先に上がるのはその財源は？という金の話。（8億円で何処まで何が構築できるのかが分からない疑問点）                      同事業は、離島・山間部を含む広大な延岡市（約886平方キロメートル）における救急搬送時間を短縮するためのもので、2023年度から2027年度までの5か年でスマートシティ推進事業の実施する計画というが・・・何をどうやって、何処から初めて何処まで出来るのか？という計画構想かもしれないが、明確に示されていないのが大きな問題点だと思う。</p>	<p>本事業の総事業費のうち、2分の1は国のデジタル田園都市国家構想交付金が充てられ、残りの2分の1についても、国から交付税措置により財源支援が行われます。</p>

4~7	実現に向けた取組	<p>質問</p> <p>①その事業は、何処を拠点として、いつから実施するのか。</p> <p>②その事業を行った結果、何が出来上がるのか。行きつく先は・・・</p> <p>③いつから緊急搬送開始され、現実問題としていつから市民に提供できるのか？</p> <p>④北方の山間部や北浦の離島での受け入れ施設はできているのか？</p>	<p>①本事業は、延岡市を拠点とし、今年度から実施する考えです。</p> <p>②大学病院から遠いなどの地理的ハンディを抱えている本市において、これまでよりも多くの方々の命を救うために、次のような取組を行います。</p> <p>1) 「空飛ぶクルマ」が実用化される大阪・関西万博（2025年）の前においても、少しでも早く適切な治療が実施できるよう、まず、救急車とドクターヘリとの間での患者データの送受信の調査・検討を行う考えです。</p> <p>2) また、救急車から搬送先病院へ患者の容態をリアルタイムで伝送するライブカメラの導入についての調査・検討も行う考えです。</p> <p>3) 大阪・関西万博で商用運行される「空飛ぶクルマ」が医療用に使われ、救急車やドクターカー、ドクターヘリの既存の救急モビリティに「空飛ぶクルマ」を加えるとともに、QaaSシステムの高度化により、本市の救命救急医療の対応力強化を図り、救命救急率の向上を目指します。</p> <p>③「空飛ぶクルマ」の国内での商用運行は2025年の大阪・関西万博からですので、その年以降になることは間違いありませんが、本事業において、関係団体と連携しながら、出来る限り早く「空飛ぶクルマ」によるサービスの実現を目指してまいります。</p> <p>④空飛ぶクルマの離発着場については、今後本格的な調査・選定を行うこととしておりますが、ヘリコプターが離発着に必要とする土地よりも狭い土地での離発着が可能というメリットがあります。</p>
8~13		<p>⑤どうすれば広大なエリアをカバーできるほどの空飛ぶクルマができるのか</p> <p>⑥事業の行き着く先は何処なのか？システムなのか？それともインフラ施設なのか</p> <p>⑦事業計画の詳細はできているのか</p> <p>⑧「人・モノ・かね」という現実問題は解消されるのか？</p> <p>⑨私も一度、宮水の被害で、延岡小学校から八戸小学校まで緊急ヘリで搭乗した事が有るがその機体の騒音たるやレシーバーをしていないと会話さえできなかった。騒音問題はクリアできるのか</p> <p>⑩将来構想はどの位出来上がっているのか。運用時期と運用計画・費用対効果の検証はできているのか？</p> <p>素人の私でさえ、この程度の関心は。持ち合わせている。 もっと、以前、第6次計画の際に行った「市民100人会議」などを通じて計画の全容を知らしめる事こそが肝要に思います。 もう少し議論展開をするのであれば、人選と規模を考える事からお願いしておきたい。</p>	<p>⑤現在、多くの企業が「空飛ぶクルマ」の開発を行っており、合わせて、国の方でも法整備や機体の安全基準、離着陸場の検討が行われており、その動向を注視しながら、本市としても医療・防災用の利用に向けたさまざまな提案を行ってまいります。 また、「空飛ぶクルマ」のみで全市域をカバーすることは大変厳しいと考えておりますので、既存の救急車、ドクターカー、ドクターヘリとの効果的、効率的な組み合わせ、役割分担による運用を検討してまいります。</p> <p>⑥この事業により、「一人でも多くの命を救う」ための救急搬送システムを確立し、本市の長年の課題である「救命救急医療の対応力強化」を図り、市民の皆さまにとって安心で安全なまちを目指します。なお、本事業ではインフラ施設等の建築整備は考えていません。</p> <p>⑦令和5年度から令和9年度までの5か年で取り組む主な事業の計画は作成しておりますが、詳細な計画はまさに今回の事業で策定していく考えです。</p> <p>⑧医療・防災関係者や有識者等で構成する検討委員会等を設け、官民協働でPDCAサイクルを回しながら事業を推進してまいります。また、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活用し、QaaSシステムや運用体制の高度化などに取り組んでまいります。</p> <p>⑨「空飛ぶクルマ」から発する音量は、現時点でヘリコプターの1/4と想定されていますが、さらなる低減を目指して開発が進められています。</p> <p>⑩医療・防災用の「空飛ぶクルマ」の運用開始時期は、2027年度末（令和9年度末）を目指しています。 運用に向けて、今後、医療や防災分野の関係者と協議・検討を行う中で、費用対効果の検証はもとより、運用体制の検討、実装計画策定を順次行ってまいります。</p>
14	ご意見	<p>結びに 構想ビジョンはあくまでも机上の空論、それを現実問題として市民が喜べる安心した社会ができる様にして行くのか、行政トップの手腕である。 「市民は知る権利がある」議会・議員は「知らせる責務がある。」と思う。 一方通行にならない様に、開かれた市政・議会改革をお願いしたい。</p>	<p>引き続き、いただいたご意見を参考にさせていただきながら、安心・安全な社会の実現に向け、事業に取り組んでまいります。</p>

15	安全性について	<p>QaaSシステムに関しては、医療情報の共有や救急搬送トリアージサービスは、TV等でみる感じでは、とても良い事だと思う。Drヘリに時間がかかるからこそ、必要だと思う。空飛ぶクルマに関して、医療ももちろんだが、防災でも多く活用してほしい。鯛名は、妙見橋がくずれたら陸の孤島になると思っているので、そのような場所へ物資を運ぶことに活用してほしい。そこで、「運航ルート確立」とあるが、そのルートしか飛ばさないでは、何の為の物が分からない。Drヘリのように、各地区どこに着地するかを決めていただきたい。また、ヘリコプターより安全性が高いか？も知りたい。何十年の前、旭化成専用のヘリコプターや発着地が作られたが、事故だったか、安全性だったか…？結局無くなり、今の清掃工場になった様な…。いつのまにか無くなるような物だったら、もっと他の事を考えてほしいと、交付金や財源を使うからこそ、考えてほしいと思います。</p>	<p>本市では、「空飛ぶクルマ」を南海トラフ巨大地震で道路交通が途絶したときの救助や、救援物資の運搬等にも活用できないかと考えており、実証事業を行う際には、地元の医療関係者や防災関係者に参加していただき、今後の機体開発に向けた提案等もいただくことを考えています。また、法整備や機体の安全基準、離着陸場については、国が設けた「空の移動革命に向けた官民協議会」の各ワーキンググループで、現在検討が行われているところであり、本市も参加していますが、国の定める基準に従い、運行事業者や離着陸場候補地の選定を進めてまいりたいと考えております。</p>
16	費用について	<p>救命救急医療への対応は必要だと思いますが、メインが「空飛ぶクルマ」に集中しており、総事業費もそのようになってる。果たして「空飛ぶクルマ」が実現するのも不明、他人まかせな気がします。まずはドクターヘリあたりから検討されたら如何でしょう（専用ヘリ）</p>	<p>ヘリコプターとの違いとしましては、経費が安い点、例えばドクターヘリが初年度に11億円以上かかるのを1億円程度で済むことに加え、管理コストも削減できるなどの専門家の指摘があるほか、騒音が小さく、また、例えば大きめのコンビニの駐車場程度のスペースでも離発着が出来ること、さらには、電気で動くため脱炭素型の乗り物であること等がメリットと言われています。このような点を踏まえ、2025年の大阪・関西万博での実用化も間近に迫る中、本市は空飛ぶクルマにより一人でも多くの市民の命を救うことを検討しており、このたび国もそのプロジェクトの支援を決定したところであります。</p>
17	実現に向けた取組	<p>この事業に取り組むこと自体は非常に良いことだと思います。しかし、巨額な費用を投じて実施するのであれば、掲げられている目標を達成して実現できるようにしていただきたいと思えます。それが実用化された場合は、延岡が単なるモデル地域で終わらないようにしてもらいたいです。</p>	<p>本市は、「空飛ぶクルマラボ」を有し、我が国の空飛ぶクルマの中心的役割を担っている慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究所と令和3年12月に連携協定を締結し、それを根拠として、医療や防災分野における「空飛ぶクルマ」の活用に向けた取組を同大学などと連携して行っております。また、同大学が中心となって医療関係者なども参画するNEXTAA・「空飛ぶクルマ」による医師搬送システム検討コンソーシアムがつけられ、そこにおいて医療用としての利用についても鋭意検討が進められています。そのような取組みに対し、このたび国が支援を決定したところであり、今後全国のモデルとなるよう進めていく考えです。</p>
18	ご意見	<p>「新技術で命を守る」スマートシティ推進事業、計画、事業内容、素晴らしい事業に大賛成です。財源内訳も、国家構想交付金を活用され、全国に先がけて「空飛ぶクルマ」を活用され、医療・防災利用して、脱炭素先行地域に選定されたこともはずみになりますし、全国の自治体の人口減少に歯止めになり、事業の成功を期待しています。</p>	<p>「空飛ぶクルマ」は、わが国でも2025年の大阪・関西万博で実用化されることになっており、ヘリコプターよりも低コスト・低騒音で脱炭素型の移動・搬送手段です。本事業の推進を通じ、救急搬送時間の短縮や医療措置の迅速化、救援物資の確実な搬送などにより、「一人でも多くの命を救う」医療・輸送サービスを実現するとともに、先進的医療の実施により医師研修の場としての魅力を高め、意欲的な医師を確保することにより、人口減少の抑止や交流人口増にとって必要不可欠な「安全・安心」を高め、持続可能な地域づくりを推進してまいります。</p>
19	ご意見	<p>・スマートシティ事業計画良いと思う ・空飛ぶクルマそうぞうできない ・救急車のカメラによる搬送先医療機関のライブ配信をはやくしてほしい。 ・事業すると費用がかかると思えます それは仕方がないことだと思う。頑張ってください。</p>	
20	日常時の利用について	<p>送付されてきた資料はどこか漠然としてわかりにくいですが、取組みとしては素晴らしいと思う。ただ空飛ぶクルマと聞くと夢はあるが、何年後…いつ本当に実用的なのか疑問に思う。非常時大切だが、日常時の安全、便利な環境、交通機関、道路等の整備が優先事項と思う。市民の生活にもっと活力と希望が与えられるデジタル都市になればいいなと思う</p>	<p>「空飛ぶクルマ」については、2025年の大阪・関西万博で実際に利用されることになっております。また、本市以外にも「空飛ぶクルマ」に関連するプロジェクトを進めている自治体もあります。大病院などから遠い本市としましては、「一人でも多くの命を救う」べく、日常時の医療用や災害時の救助等の利用について検討しているところであり、それをこのたび国が支援を決定したところでありますので、市民の皆さまの安心・安全をしっかりと確保していく考えです。</p>

21	取組みの 意義につ いて	<p>①資料2ページにある「地域課題」は、延岡市だけでなく多くの外の地方都市の課題だと思ひます。そういった点で延岡市が「未来技術を活用した取組み」を行うのが意義があり、国もそれに対する支援という形でスマートシティの推進を行っていると思うので、ぜひ頑張ってください。</p> <p>②医療・防災利用「空飛ぶクルマ」の実装が5年後になっていますが、「空飛ぶクルマ」の実用化にはまだまだ高いハードルがあると思ひます。</p> <p>昨年度までの市議会で、「空飛ぶクルマ」に懐疑的な意見を述べられておる議員もおられました。この医療用「空飛ぶクルマ」は医療体制が弱い地方都市には必要な未来技術であり、延岡市が他都市に先駆けてやっていくことに大きな意義があると思ひます。</p> <p>そういった点で「変な誤解」が生じないように、「実装」と「実現」の違いを明確にしておいた方が良くと思ひます。</p>	<p>高度医療の拠点から遠く離れている都市や津波被害等が懸念される沿岸地域は本市と同様の課題に直面していることから、本市の取組みは他の多くの市町村の課題の解決にも役立ち、全国の市町村への横展開が可能となるものだと考えております。</p> <p>「安心安全の確保なくして、人口減少抑止なし」ですので、人口減少に歯止めをかけ、また、新進気鋭の医師の研修を呼び込むことにもつなげることも含めて、「安全・安心」を高め、持続可能な地域づくりを推進してまいります。</p> <p>また、ご指摘のような「誤解」が生じないためにも、今回の事業を通じて多くの市民の皆さまにわかりやすくその意義や実現可能性の高さを伝え、ご理解を深めてまいります。</p>
----	--------------------	--	---